

コラージュ制作における台紙の色の選択

赤塚なつみ¹⁾・橘 玲子²⁾・浅田 剛正³⁾

1) 新潟大学医歯学総合病院精神科

2) 新潟青陵大学

3) 新潟青陵大学大学院

キーワード：コラージュ、台紙の色、制作体験

The Color Choice of the Pasteboard in a Making Collage

Natsumi AKATSUKA¹⁾, Reiko TACHIBANA²⁾, Takamasa ASADA³⁾

1) Department of Psychiatry, Niigata University Medical & Dental Hospital

2) Niigata Seiryō University

3) Graduate school of Niigata Seiryō University

Keywords : collage, color of the pasteboard, making experience

I はじめに

コラージュ制作にあたって台紙についての規定はない。コラージュ製作に関心のある臨床心理士数名で5回にわたってコラージュ制作を行う研修会を開催したところ、特定のテーマが現れる、作品が変化する、新しい試みを行う、変えたいが変われない体験をするなど、継続して制作することによるとみられる興味深い体験が語られた(橘ら、2014)。しかし作品の継続制作だけではなく、製作者の台紙選択についても興味深い結果が得られた。準備されていた8種類の色彩台紙の中から白い台紙を選択する者は少なく、黒や紺色系の色の濃い台紙が多く用いられた(橘ら、2015)。また、デイケア等の臨床事例においても色彩台紙の使用があり(長谷川、2011)、箱庭療法を行うにあたって通常は普通の砂と白い砂の2種類が準備される。このようなことから、コラージュ作品の表現にも台紙の色が関わっていると考えなければならないであろう。

以上の経験から、筆者らは臨床心理士と臨床心理学を学ぶ大学院生に呼びかけ、グループで継続的にコラージュを制作する会を開催した。ここでは台紙

の色彩の選択を統制し、コラージュ制作における台紙の色彩の持つ意味を検討することにした。

II コラージュ体験会の開催

上述したように、コラージュ製作において、台紙の色によって製作体験にどのような違いがみられるか検討を行うこととし、臨床心理学を専攻する大学院生を対象に2回のコラージュ体験会を開催した。

1. 第1回

平成28年の2月から3月にかけて、臨床心理学を学ぶ大学院生で構成されたグループで、2週間に1度、同じ場所で同時に制作する集団コラージュを行った。回数は全3回である。制作は、製作者が各自雑誌などから自由に素材を選び、切り取って使用するマガジン・ピクチャー・コラージュ法で行った。参加者は全員で11名だが、3回全てに参加したのは6名であった。参加者にはB4サイズの白と黒の台紙を交互に使用するよう指定し、それ以外は自由に制作してもらった。3回全てに参加した6名のうち、黒白黒の順で制作したのは4名、白黒白の順で制作

したのは2名であった。2回だけの参加者にも白と黒の台紙を交互に使うよう指定した。

(1) 台紙の色による製作体験①

【1回目】

この日の参加者は11名中10名、白い台紙と黒い台紙を、それぞれ5名の参加者に使用するよう指定して実施した。この回のみ参加者が2名おり、いずれも白い台紙を使用してもらった。

台紙の色については、黒い台紙を使用した者だけから言及があった。「黒を意識して作った。暗いものを使わないようにした。上に(アイテムを)乗せたときに映えるように作った」「台紙が黒で、圧迫感というかちょっと詰まるなと思ったので、自然とか開放感がほしかった。(アイテムの)色も黒で映えそうだな」「台紙が黒だったので、パステルカラーが欲しいと思った」など、黒い色にアイテムの色が映えるという感想が聞かれた。

【2回目】

参加者は11名中8名で、この回からの参加者はいなかった。参加者には、前回とは違う色の台紙を使用するよう指定したが、台紙の色を比較した体験の感想が多かった。

白い台紙の製作者からは、黒い台紙との違いや表現の難しさが聞かれた。「赤が映えるので入れてみた。前回黒だったので白がまぶしい。黒はパツとした色を入れる気持ちが結構あったけど、今回は暗めな色を選ぶことが多かった」「白い壁紙の部屋をイメージした。黒の方が楽しくて、黒に合う色を考えるのが楽しかった。今回は白で、ライトをつけたくて。でも白だと難しかった。黒だと空いているところが気にならないのかもしれない」「前回黒だったときは何を貼っても黒になじんだ感じがしたけど、白で輪郭がはっきり見えるので、ドレスのフワフワした感じが出る緑がなかなかなくてちょっと悩んだ」「白だったらビビットカラーでもいいかな。白い紙に色が映えるなと思い」などの体験が語られた。黒い台紙では、「白だと自分で形を勝手に作り上げてやろうというのがあるけど、黒だと最初から威圧感が出るのでポンポンポンと貼ってやろうと(思った)」「前回も黒がよかったと思いながらやっていたが、今回はテーマがテーマ(殺人事件)だったので黒がまとまってよかった」と、黒に威圧感を持ったり、作品にまとまりを感じるといった体験があった。

【3回目】

参加者は11名中8名で、第2回と同じように前回使

用しなかった色の台紙を使うよう指定した。この回のみ参加者が1名おり、黒い台紙を使用してもらった。この回では、白い台紙を使用した者からも黒い台紙を使用した者からも、余白に関する言及が多かった。

白い台紙の使用者からは「余白が気になって、埋めようと思ったがよくわからなくなった」「黒いやつのほうがやりやすかったと思う」「白だと余白がどうなるかと思ってチーターを貼った」という感想があり、黒い台紙の作りやすさや、余白に戸惑い埋めようとした様子がみられた。黒い台紙の使用者の体験の語りは以下のとおりである。「ピンクの色を気に入って、黒の上に置きたいと思った。前回の白のとき、空白が嫌な感じがかった。黒に戻ってみると、白に比べて空白が気にならない。白だったらもっと入れなくちゃという感じがあると思うけど、黒だったら空きでも焦らず安心感があった。前回よりは気楽に作れた感じ」「台紙の色はあまり考えなかった。もし白い紙だったら余白を気にしたかもしれない。黒の方が安心して貼れるかも」「黒の方が作りやすくて。黒地に書かれている文字がなじむので貼りやすかった。余白は黒だと気にならない。白だと、白いところが残っていると手を抜いたみたいになるので、黒だとほっとけるなという感じがする」「白か黒だったら黒が。余白の感じが白の方が出て、黒だと余白っぽくなく、光の表現がしやすくて余白感がなくなる」。以上のように、空白を気にせず安心して作品を作れるという感想が多くを占めた。一方で「台紙によって貼らされた感じ。白の方が何でも貼れた。色がきつめだったので、貼らされた感。貼ればいいんでしょ、みたいな。黒の方が不自由」と、自分の意に反して作品を作らされ、不自由な体験をしていた者もいたことがわかった。

2. 第2回

平成29年3月から4月にかけて、臨床心理学を学ぶ大学院生7名のグループを新たに設定し、全3回、2週に1度の集団コラージュを行った。このグループには第1回目の参加者は含まれていない。コラージュの製作は第1回目と同様にマガジン・ピクチャー・コラージュ法で行い、B4サイズの白と黒の台紙を用意した。第1回と異なる点は、1回目は使いたい色の台紙を自由に選択すること、2回目は1回目で使用しなかった色の台紙を使用すること、3回目は再び使いたい色の台紙を使用することを条件とし、それ以外は自由に制作してもらったことの3点

である。なお、この会では他に臨床心理士有資格者が3名参加しており、白と黒の台紙を1回ずつ使用して計2回制作しているが、今回の結果には加味しないこととした。

(1) 台紙の色による製作体験②

【1回目】

白い台紙を選択したのは3名、黒い台紙を選択したのは4名であった。

白い台紙を選択した者は「明るい感じにしたい、さわやかな水にしようと思った」「水色が映えるのが黒より白がいいと思った」「黒と白で夜と昼と思って、昼から使いたいと思って白にした」と、アイテムとの相性や明るさを求めて白色を使用していた。黒い台紙を選択した者は「黒い用紙にしたせいか、異様な雰囲気が出た」「黒を見たときに、なぜか星空が見たい、宇宙だというイメージがあって、今日は黒だと思って選んだ」「暗いところに不安を感じて埋めたい。黒が怖くて周りに好きなものを貼ってみた」と、白と同様に色に対する意味づけをしたり、暗さや異様さを感じ取ったりしていた。

【2回目】

前回使用しなかった色の台紙を使うよう指定したため、白い台紙を使用したのは4名、黒い台紙を使用したのは3名であった。

白い台紙では「貼りやすい。台紙を残してもなじむ」「背景が白だと黒いものを選ぶなと思った」という感想が聞かれた。黒い台紙では「黒に映える、好きなものを意識して(アイテムを)切った。丸と星は黒に映えるなと思った」「周りが真っ暗で宇宙みたい。火は、周りが黒だからなじみやすかった」と、黒色に対して意味づけをしたり、色を意識してアイテムを選択したなどの体験があったようである。

【3回目】

前回までで白と黒の台紙での製作を両方経験してもらった上で、好きな方の色の台紙を使用してもらった。白い台紙を選択したのは1名で、他の6名は全員黒い台紙を選択した。

白い台紙を選択した者は「白の方が好きで、切り貼りするときに雑さが見えないからと、明るさを表現したい。黒だと明確、くっきりはっきりして見えるので、貼ってても好きじゃない」と、明るさの表現がしやすいことと、アイテムと台紙との境界をあいまいにできるという理由を挙げた。黒い台紙を選択した者からは「黒の方が落ち着く。作ろうとしてたのは明るいものだったけど、(アイテムを)並べてみ

ると薄暗い感じがして怖いと思って花を散りばめてみた」「黒が作りやすい。白だと何もないまっさらな感じがして、何から始めていったらいいんだろうという感じ。黒だとまっさら感があまりないので。写真もはっきり見える」「黒の方が作りやすい。白いと不安で何も守られてない感じがする」「白だと自分が出すぎる、引き出される感じがあって。黒のきっちりした感じが貼りやすくて」「黒い台紙が海苔っぽいなど、いろいろ想像しておもしろかった。色が映えてよかった」と、白い色の「まっさら感」から来る不安やそこから自分を引き出される感じを持つこと、またイメージを投影できることの面白さが語られた。

Ⅲ. 結果

第1回、第2回のコラージュ体験会を通し、製作者が黒い台紙に作りやすさを感じて選択することが多いことがわかった。さまざまな体験が語られたが、主に余白の残しやすさ、自分が引き出される体験、イメージの投影という点での言及が目立った。同じ色でも製作者によっては逆の体験があったが、多くは余白の残しやすさや安心感という点で黒い台紙の使用を好んでいた。以下では、特に言及の多かった余白と、自分の意志に反する、あるいは作りやすい色ではない台紙をあえて選んだ製作者の作品を提示する。

1. 余白について

白い台紙、黒い台紙のどちらも余白を効果的に用いた作品がみられたが、黒い台紙の余白に安心感をもつ者が多かった。

【事例1】は第1回コラージュ体験会の参加者である。1回目は黒の台紙を指定され「黒を意識しながら作った」(写真1)。2回目は白の台紙を指定され、「白い壁紙の部屋をイメージした」ものの「なかなかいいのが見つからなく時間がなくなり」、「中心ががら空きだったので、とりあえず洋服、ブーツとか切って中心に貼った」という(写真2)。「ライトを付けたくて」「でもライトってほとんど白で、白だと難しかった」「黒だと空いてところが気にならないのかもしれない」と白い台紙での製作の難しさを語った。3回目では再び黒を指定され、「黒だったらがら空きでも焦らず安心感があった」「前回より気楽に作れた感じ」と改めて白い台紙の難しさ、黒い台紙の余白の残しやすさによる安心感を述べた(写真3)。



写真1 事例1 (1回目)



写真2 事例1 (2回目)



写真3 事例1（3回目）

2. 引き出される体験

第1回では黒い台紙に「貼らされた感」を抱き「イライラしながら」制作していた者があった（事例2）。また第2回でも、「白い台紙が好き」と言いながらも、白と黒を両方体験した上で最後に黒い台紙を選択した者があった（事例3）。この2つの事例の作品と製作体験は以下のとおりである。

【事例2】は、1回目で黒い台紙を指定され「あまり気に入っていない。何も言うことがない。貼りたいものがあつたがまとまらなかった」と感想を述べた（写真4）。2回目に白い台紙の使用を指定されたが、「すごく楽しく作れた。好きなものを今日は全部貼ろうと思って、そこから楽しくて」と1回目とはまったく違う体験をしている。アイテムについても「すごいなと感動」したり、「いいな」「行きたいな」「かわいいな」と述べ、非常に楽しみながら、情緒豊かな体験をしていた様子である（写真5）。3回目はまた黒の台紙を指定され、「またイライラしながら作った。なので特に言うことはない」とネガティブな感情を語った。「黒なのでどぎつい

色のものが映えると思うけど、どぎつい色があまり好きじゃないので、貼りたくないものを貼らなきゃいけないかなっていう思いが出てきて」「台紙によって貼らされた感じ」がして「黒の方が不自由」という体験をしていた（写真6）。

【事例3】は1回目で白い台紙を自ら選択し、「最初に紙を選んで、モチーフを選んでいった。明るい感じにしたい」と語った（写真7）。2回目では黒い台紙を指定されて制作したが色への言及はなかった。「どこか行きたいなと思って」「休日にのんびりしたい」と考えながら作品を制作したという（写真8）。3回目では「やりやすかったのは白」と言いながらも黒い台紙を選択した。「1回目からいいと思っていた」アイテムを使い、「2回目はエネルギーがなくて休みたいって方向に行って、今回作ってみたけど疲れた。エネルギーを使い切った感じ」と感想を述べた（写真9）。

事例1では自分の意に反したものが引き出される体験、事例2では自分の許容範囲を超えてエネルギーが引き出された体験が語られた。

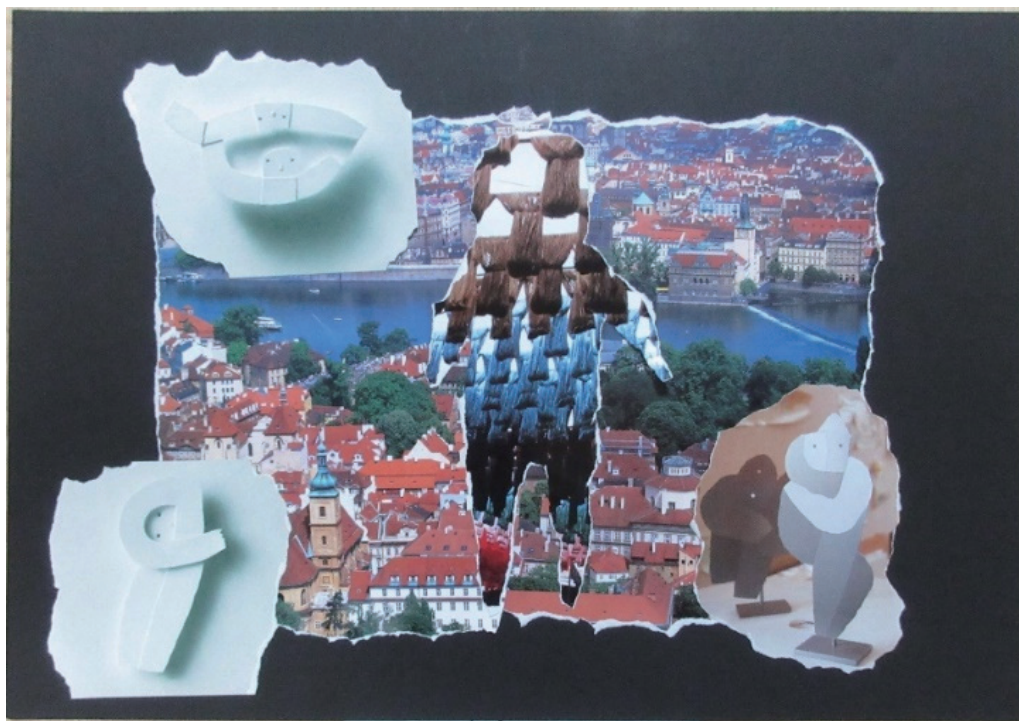


写真4 事例2（1回目）



写真5 事例2（2回目）



写真8 事例3（2回目）



写真9 事例3（3回目）

Ⅳ. 考察と今後の課題

今回行った2回のコラージュのグループ制作では、白い台紙と黒い台紙を用紙した場合、一般的に用いられている白い台紙よりも黒い台紙が選択されやすかった。この理由を筆者は以下のように考える。

黒い台紙は、多くの製作者の語りやⅢ-1の事例1のように、余白も作品の一部として無理に埋めずにそのままにしておける安心感があると考えられる。そして白い色に比べて作り手からイメージを引き出す働きが強く、作品制作の方向性を規定する働きがあることが推測される。Ⅲ-2の事例3は、普段の自身の表現を超えるものが引き出され、その結果「エネルギーを使い切った」のだろう。こうしたことから、Ⅲ-2の事例2のように、自分の意に反し、黒い色から引き出されたイメージに縛られて不自由さや不快感を持つ者がいると考えられる。また白い台紙でも「守られていない」「自分が出すぎる、引き出される」という体験をした者があったが、これは余白の残しづらさを作り手に与えやすい白い台紙の特徴によるのではないか。筆者はむしろ、白い台紙は特定のイメージを喚起しにくく、それによって戸惑いや不安を感じて作りづらさをおぼえる者が多かったのではないかと考える。逆に白い台紙が使いやすいという者は、イメージを引き出されすぎない刺激の弱さや規定されない自由度の高さを体験していたと思われる。言い換えれば、自分自身でコントロールできる範囲で作品を作れるということであろう。以上から、心理療法としてコラージュを用いる場合、色の付いた台紙の使用には慎重さが必要と考えられる。

今回は台紙選択と製作体験に着目したが、サンプル数が少ないため今後さらに多くのデータからの検討が必要と思われる。その際には、より具体的な製作体験を知るためにアンケート調査を行うことが望ましい。また製作体験だけではなく、台紙の色の違いにおける作品の表現内容の検討も今後の課題である。

謝辞

この研究調査は平成27年度・28年度新潟青陵大学大学院研究費（代表 浅田剛正）の助成を受けて行われたものです。

参考文献

- 橋玲子・長谷川早苗・運上司子・赤塚なつみ・布施直美・上野あゆみ・真壁あさみ（2014）：『連続的に行ったコラージュ制作過程について』、新潟青陵大学大学院 臨床心理学研究第7号、pp21-27
- 橋玲子・長谷川早苗・赤塚なつみ・運上司子・上野あゆみ・布施直美・中村協子（2015）：『コラージュ制作における色のついた台紙の影響』、新潟青陵大学大学院 臨床心理学研究第8号、53-55
- 長谷川早苗（2011）：『統合失調症事例の作品変化～コラージュグループ鑑賞会の意義を踏まえて～』コラージュ療法学研究第2巻第1号、pp3-15